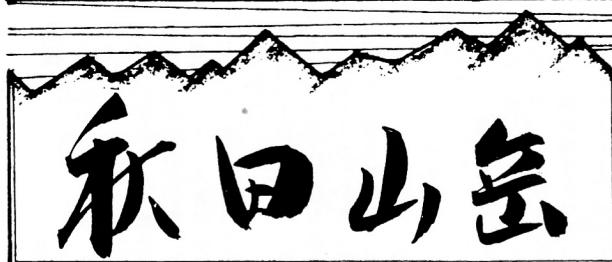


2010



平成22年8月発行

No. 81

社団法人日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2番23号 佐々木方

TEL・FAX018(833)2525

発行者 佐々木 民裕 秀子
編集者 佐々木 鈴木 裕子

● ● ● ● ● 平成22年度 秋田支部総会 ● ● ● ● ●

平成22年度秋田支部総会は、四月四日午後四時から、秋田市の「協働ビル」において開催された。鈴木事務局長の進行によって始まり、会員総数七十二名の内、出席会員二十一名、委任状提出出席会員三十一名を確認。

始めに、佐々木支部長から昨年度は春の自然保護全国集会、秋の設立五十周年記念式典まで会員の協力、ご支援をもって無事に終了したことへのお礼と、高齢化、支部の活性化、公益法人、山の日制定等の日本山岳会が直面している難しい課題を含め、これからも支部の運営にご協力をお願いするとの挨拶があった。

続いて、鈴木(要)副支部長を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成二十一年度の事業について鈴木事務局長が報告。五十周年記念事業、太平山前岳への標柱設置、支部山行、支部後援の写真展、会報の発行、支部会議、事務局担当者会議、本会総会並びに年次懇親会への出席等の報告。

案件二 平成二十一年度収支決算について福田常務委員(会計担当)が報告。高橋会計監事から、四月一日、秋田市のアルヴェにおいて行われた会計監査の結果、特別会計も含め、関係書類が適正に処理されていることが報告

され、事業及び決算は承認された。

案件三 平成二十一年度事業計画について鈴木事務局長が説明。支部山行として、春の里山や青森・秋田・岩手の三支部合同の四角岳・中岳登山、自然保護全国集会、本会通常総会、年次懇親会、支部長会議等への出席。公益的事業として、太平山山開き市民登山への協力等。また、新型インフルエンザの世界的流行で延期となつた訪韓登山についても実施したいとの説明があつた。

案件四 平成二十一年度予算案、設立五十周年記念事業予算案について福田常務委員が説明。事業、予算案共に承認された。
(以上 総会資料参照)

その他として、五十周年記念誌、会報合本の発注について、事務局担当者が会議の報告、長岩名譽顧問写真展の入場者情報、国体競技のクライミングウォールのことなどが話題となつた。

総会は午後五時終了し、引き続いだ懇親会では、遠路出席していなかった長岩名譽顧問の挨拶と乾杯の発声で始まり、五十周年記念事業の想い出や、春山山行への期待、会員の山行情報等を楽しみ、午後八時頃、遠路出席くださった安藤名譽顧問の中締めの乾杯となつたが、その後も一献を傾め、懇親を深めていた。

支部総会開催される

お礼 次の方々からご芳志を頂きました。厚くお礼申し上げます。
進藤昭 一万円、長岩嘉悦 一万円
安藤武俊 五千円 佐藤昭義 五千円
佐々木民秀 一万円、北林嘉鹤子 五千円、
濁り酒 佐藤昭義
清酒 今野昌雄 鈴木裕子



長岩名譽顧問の挨拶で懇親会開催

出席者

進藤昭	長岩嘉悦	安藤武俊
佐々木民秀	北林嘉鹤子	
福田光子	高橋守	今野昌雄
鈴木要三	杉山雄幸	金豊治郎
大山健助	鈴木裕子	堀井弘
鎌田倫夫	佐藤博	高橋忠雄
石川祐子	柴田勤	伊藤秀雄
三浦眞六		安藤金栄
熊谷光子		
川原義雄		
小笠原義雄		

懇親会のみ出席 佐藤栄治

春の里山山行

漫画「釣りキチ三平」ふるさとの山・高根山へ

高根山へ 柴田

勧

高根山

五月九日 (日) 天候 曇り 秋田中央インターを七時三十分に出発し、十文字道の駅に十八名集合。案内の地元秋田支部長岩名謙顧問の待つ上畠集落へ移動し、ナマズ養殖場付近に駐車。釣りキチ三平大活躍の雰囲気が感じられる土地だ。

八時五十分行動開始。狙半内川の小支流添いを進んで橋を渡ると、杉林の中に山道があり、いきなり急な登りとなる。息を弾ませて登るが、直ぐ雑木林に変わり、淡い新芽の緑・春紅葉のなかに山桜、そして残雪が垣間見え気持ちが良い。

この先、道は瘦せ尾根の急登が続くが、ゆき椿、カタクリ、イワイチヨウと花盛りで、息を弾ませる一行を和ませる。両側が切り立つ馬の背も出でてきて、里山山行にしては少しハードなものとなつた。

十時十分、ようやく緩斜面となり高根権現様を祀る神社に着いた。

三等三角点のある頂上は、ここから左手二十メートル程先で、雑木林の中で眺望は良くない。全員到着を待つて記念写真を撮る。

下山は往路を戻ることとなつた。馬蹄形状コースを下ることとなつた。馬蹄形状の尾根伝いに大岡台沢経由集落まで林道がつながつていて、雪も消えたばかりを進める。



高根山山頂にて



女亀森展望台にて

男亀森と女亀森散策

十三時、真人公園を突つ切り、北に金峰山、南に真人山の位置にあたる場所に到着。東屋で参加者全員での昼食となる。この付近の共有地管理に当たつている長岩さんから山林維持管理の苦労話を拝聴する。

十四時、車をこの先の林道へ進めで駐車し、歩行開始。十分ほどで雑木林の中東屋のある女亀森着。ここは展望台になつており、真人山をのぞむ。ここから少し引き返し雑木林の尾根道を左に辿ると、太い松・杉木立の中、太平山三吉神社が建ち、四等三角点のある男亀森に着く。

参加者

福田(光) 長岩(佐々木(民)) 鎌田(佐藤(忠)) 柴田(勲) 伊藤(秀)

佐々木(長) 佐々木(悦) 鈴木(裕)

会員外 佐藤(満) 吉川(昭)

柴田(路)
高根山のみ
福田(光) 柳田(佐藤(博)) 石川(佐藤(栄))
高橋(忠) 堀井(佐藤(博)) 鈴木(裕)
佐々木(長) 佐々木(悦) 鈴木(裕)
会員外 佐藤(満) 吉川(昭)

◆太平山山開き 市民登山に協力

平成二十二年六月十三日、毎年六月第二日曜日に開催される「太平山県立自然公園整備促進地域協議会」主催の山開き清掃登山にサポートとして協力。

一般参加者三十一名
秋田大学韓国留学生等六名

参加者

佐々木(民) 今野(昌) 柳田(路)
鎌田(堀井) 柴田(鈴木(裕))
高橋(忠) 伊藤(秀) 長岡(安藤(金))
石川(熊谷)

記念撮影後下山。道沿いにコシアブラ、ワラビ、ゼンマイなどの山菜を摘みながら駐車地点へ戻る。

この林道を北にむかうと金峰山の東側をとおり、横手方向に向かう。ここで解散となり、本日のガイド、並びにりんごジュースまで差入れして頂いた地元、長岩さんにお礼を申し上げ、十五時二十分、それぞれの方向に帰途となつた。

日本山岳会秋田支部

(3)

北東北二支部・三県境の四角岳で集つ

秋田・青森・岩手の県境に四角岳(一〇〇三m)があり、この山を取り巻く三県の支部で親睦登山を行おうと秋田支部が提案し、三年ほど前から話し合っていたが、この度、青森支部が主管となり、六月二十日に第一回目を実施した。

四角岳へは、秋田側は不老倉、青森側は花木ダム、岩手側は切通しからの三つのコースがあるが、秋田支部一行は、登り慣れた不老倉コースをとらず、今回全員初めての花木ダムからのコースを選んでみた。

午前五時、三台の車で土崎支所前を出発。一〇三号線を経て花木ダム先の林道を辿って登山口に八時過ぎ到着。前日から泊り込んでいた高橋青森副支

部長一行と合流する。
八時四十分、一足先に出発させていただき、林跡を進んで山頂から東に延びる尾根に出、太いブナ林の続く尾根を登って、ガス一面の四角岳山頂に十時に到着した。

小休止後、西隣に並ぶ中岳(一〇二四m)へ。秋田と岩手県境の鞍部を経て、一等三角点と猿田彦を祀る中岳山頂に十時三十分到着。記念撮影後、一瞬ガスが流れ、周囲の山々を眺めたのもつかの間、雷が鳴り、雨も降りだし、きてるので急いで四角岳に戻る。

山頂では、青森支部の下山支部長一行が肉鍋とビールを担ぎ上げ、同時に

岩手側からも内山支部長、菊池前支部長一行が到着。雷と雨降りの中、立食パーティにて和気藹々と親睦を深め合つた。

正午、一足お先に失礼し、取り残されたタケノコを探りながら無事に駐車地に戻った。十三時。

以後、両山を岳界に紹介してきたが、特に、十年ほど前に青森側から四角岳への新コースが切り開かれて以来、中岳と結びつけたことなどにより、一般登山者や一等三角点愛好者、タケノコ採りなどで踏み固められ、一般登山コースとして大いに楽しめる様になつた。近年、地元山岳会などによつて整備され、益々人が高まり嬉しい限りである。

最後に、青森支部に大変ご難儀をかけましたことに感謝申し上げ、次回は秋田支部で計画する予定である。



雨降りの四角岳山頂にて



中岳山頂にて

佐々木 民秀

参加者

青森支部

十名

岩手支部

五名

秋田支部

九名

佐々木(民)

鈴木(裕)

伊藤(秀)

熊谷(美)

会員外

畠山(秀)

鈴木(時)

鎌田(高橋)

忠(裕)

鈴木(美)

◎ 本会第一回通常総会終える

平成二十二年六月十二日午後二時から、東京都千代田区・主婦会館プラザエフにおいて開催。

平成二十一年度事業報告、収支決算・財産目録承認の件、二十二年度除籍予定者の件について審議し、原案通り承認された。

協議事項・新公益法人への対応について等。

◎ 支部長会議

平成二十二年六月十二日午前十時三十分から、総会に先立ち本会会議室において開催。

総会提出議案について、公益法人の対応、山の日制定、支部活性化、森づくりの会(基本ルールの策定)、国土地理院との「登山情報に関する協力協定書」について、日本山岳会が現在抱えている諸問題について、その他等の説明があった。

また、全国支部懇談会は東京多摩支部主管に決定した。

佐々木支部長出席

会員数情報

平成二十一年度六月通常総会時

◎会員数
五一八四名

名譽会員
十八名

永年会員
二四〇名

終身会員
一三〇名

通常会員・他
四七九六名

平成二十一年度の増減

新入会員
九九名

復活会員
二名

物故会員
五七名

退会者
一三二名

除籍者
三六名

秋田支部会員
六十九名
(平成二十一年四月末現在)

支部会員動向

退会
加賀谷立身
(二十一年三月)
深井是之
(二十一年三月)
佐々木宏
(二十一年三月)

五十周年記念誌並びに
会報合本完成
五十周年記念誌と会報合本が出来上がり、会員始め本会、全国各支部、韓国慶南支部等へ配布致しました。

支部設立五十周年記念事業

寄付金(追加者)
三千円 伊藤康一 三浦俊雄

会務報告

行事参加報告

◎自然保護全国集会開催

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十五日、秋田市「イヤタカ」
に於いて開催。約三十名出席
諸議事を審議、役員改選が行われた。

当支部関係者は次の通り

副会長 荘司昭夫

理事 小野信也 三浦俊雄
顧問 高橋守 今野昌雄 加賀谷昭一

当支部関係出席者
今野(昌) 加賀谷(昭) 三浦(俊)

高橋(守)
真坂洋一

今野(昌) 加賀谷(昭) 三浦(俊)

◎中央地区山岳協議会総会

七月一日、午後六時三十分から秋田市三吉神社に於いて開催。十一団体から十八名出席。事業報告、決算、予算等報告・審議。山開き市民登山ヘリ

ダ一派遣、太平山倒木処理と清掃、刈払い等、太平山その他の情報交換と整備要望等を協議。

役員改選では、当支部長が会長に、他団体から理事として柳田、佐藤(栄)両会員が再任。

終了後の懇親会で各会の活動状況等報告。

また、前岳神仙山神社に落書きされたり、秋田支部で設置した前岳標柱、トイレ故障の県のお知らせ、山頂の三吉神社事中のお知らせ等の表示板が悪意により撤去されていたことにについても話題となつた。

また、前岳神仙山神社に落書きされたり、秋田支部で設置した前岳標柱から柳田出席。

◎訪韓登山を実施
新型インフルエンザの世界的流行のため延期されていた秋田支部設立五十周年記念事業・訪韓登山を五月二十二日(二十七日までの六日間)で実施いたしました。(会員七名参加)

◎訪韓登山を実施

石川会員 秋田県内の
千米峰百四十二座を完登

石川祐子会員は五月二日、志度内畚岳に登り、国土地理院発行の二万五千分の一に記名されている秋田県内の千米以上の山・百四十二座を完登しました。
(完登者九名・内支部会員五名)

◎訪台登山を計画

台灣南部にある北大武山への登山を計画しております。時期は月中旬から十一月下旬の予定。参加ご希望の方は早めに事務局へお知らせください。